

令和8年度 北海道網走養護学校 第1回 学校運営協議会 議事録

1. 日時

令和8年7月7日（火） 10:00～11:30

2. 場所

北海道網走養護学校 会議室

3. 出席者

学校長（渡邊）、事務長（大内）、教頭（小西）、教諭（六本木）、PTA会長（片谷様）、PTA副会長（三崎様）、網走市市議会議員（平賀様）、市役所障がい福祉課係長（加賀田様）、市役所生涯学習係長（江草様）、サンライズヨピト施設長（石川様）、網走養護学校元PTA会長（長野様）

4. 運営協議会内容

（1）開会および学校長挨拶

令和8年度第1回北海道学校運営協議会が開催された。学校長から、特別支援教育に20年以上従事してきた経歴を紹介とともに、過去に実践してきたICT機器やロボット等を活用した教育実践に触れ、網走養護学校でのICT、AI活用に関する実践に意欲を示した。

（2）学校運営協議会の役割と年間計画

事務局より、協議会の主な役割として「学校経営方針等の承認」「学校運営への意見提言」「学校評価」の3点が説明された。年間のスケジュールは、7月に経営方針承認、11月に中間報告、2月に次年度のデザイン説明を行う予定である。

（3）令和8年度グランドデザインおよび学校経営方針

今年度のスローガンを「もっとワクワク学校～スマートサポートで未知の可能性を拓く～」、教育目標に「地域で自分らしく生きる人を育てる」を掲げ、人権尊重、環境整備、専門性向上、健康、キャリア教育、地域連携、センター的機能、校務DX、指導要領改定準備、学校研究の10項目を具体策として進める方針が示された。

（４）学校環境の課題報告

施設（プール、水治訓練室）の老朽化による使用不能、校内の不用品の堆積、教員の欠員（期限付きがなかなか見つからない）が大きな課題として報告された。これに対し、校務DX（AIやデジタルツールの活用）による事務効率化を進め、生み出された時間で授業準備や子供との関わり等、教育の質を充実させる方針が示された。

（５）予算概要の説明

事務長より、年間予算総額2,721万8,000円の概要が説明された。予算の97.5%が維持運営費であり、施設修繕費は63万円と限定的である。北海道の財政状況により、予算要求にはデータや数値に基づく費用対効果の提示が求められている現状が共有された。

（６）協議・意見交換

委員より、プールの早期改修に向けて「地域開放などの多目的活用案を提示し、費用対効果を主張すべき。」「協議会として北海道教育委員会に直接意見を具申すべき。」との提案があった。校内の不用品処分等については、委員から協力の申し出が行われた。また、地域の小中学校等における障がい児童生徒支援の混乱に対し、本校のセンター的機能としての役割に期待する意見が出された。

（７）いじめ防止対策

文部科学省の指針に基づき、初期段階からの「積極的認知」を行う方針が確認された。アンケート調達や各部主事連絡会等を通じた迅速な情報共有と、加害・被害双方への適切な指導、外部機関とも連携をしながら進めていくことが確認とれた。

（８）ICT、AIを活用した授業実践

IPadを用いた低学年の情報共有、AIによる画像生成を活用した図工、VRによる見学旅行の事前学習（道順の確認等）、Bluetoothコントローラーを用いた文字入力の工夫など、多様な実践事例が写真や映像とともに紹介された。

（９）閉会挨拶

学校長より、ICT活用の全体への浸透やいじめ防止、施設課題への取り組みを継続し、地域と連携した学校運営を推進していく決意が述べられ、会議は終了した。

